



中学生に対する防災教室 ～災害を知り、危機に備える～

海曹長 樺澤 裕岳



自衛隊群馬地方協力本部沼田地域事務所（所長 2等陸尉 土屋 章）は、令和7年9月5日（金）に片品村立片品中学校において昨年に引き続き全校生徒69名、教員15名に対して防災教育を行いました。

群馬県は比較的災害が少ない県ですが、沼田地域事務所が担当する県北部は山間部のため、近年多発している集中豪雨などによる崖崩れや土砂災害に注意が必要な地域です。教育は過去の災害映像や体験談などを折り込みながら分かりやすく説明した後、「その時どうする。何をすべきか。何が必要か。」を質問形式で生徒自らに考えてもらいました。

実際に片品村が作成した防災マップを使い、自分たちの住んでいる地域の危険特性や、災害の発生時はどのような行動をとることが最善であり、日ごろからシミュレーションを行うことがいかに大切かを考えてもらいました。生徒の半数は、実際に防災マップの存在を知っていましたが、知らない生徒からは「家に帰って探してみたいと思います。」などの声が聞かれました。災害がいつどこで起こるか分からないからこそ、日頃からの準備と備えの大切さを伝えました。

生徒からは「実際の体験談を聞くことができ、ためになった。日頃からイメージしておくことが大切。防災準備や防災訓練の重要性を学びました。」等の感想や先生からも「この地域で起こりうる災害や外出先での災害について考える良い機会になりました。」との声をいただきました。

沼田地域事務所は、今後も地域の災害特性を踏まえた防災教育を行い、防災意識の向上に貢献していきます。

